

# 特集・街が灯りに包まれた日



日吉地区・下鍵山の町並みを優しく照らすキャンドルの光  
その光に映し出される刻まれた歴史  
—いつまでも伝えていきたい—

「ひよし星降るキャンドルナイト」  
そこに込められた思いとは…。

## 下鍵山に刻まれた歴史

旧・日吉村の初代村長である井谷正命氏が、「町づくりで一番重要なことは交通である」とこだわりの続けた「道づくり」。着工された明治35年当初、道幅が広く整備され、さらにその道路の両側に家々が軒を連ねるさまは、珍しかったと言われている。

その後、下鍵山の生活道路として、住民の方々とともにさまざまな歴史を刻んできた下鍵山の町並み。井谷氏が「この地域の中心に」と話した四つ角では、太平洋戦争中、出征していく人が見送られ、さらに昭和11年には、町並みのほとんどが焼失するほどの大火事に見舞われたことも…。地域の人たちの喜びや悲しみを、そして下鍵山の歴史を、この町並みはずっと見つめてきました。

大火事の後、間口の広さや軒の高さを揃えるなど、以前と変わらぬ姿で復興を遂げた下鍵山地区。現在も、その昭和初期の町並みを色濃く残しています。そして、その風景

は、長い歳月をかけて、この地域に住む人たちにとって、「誇り」という形でその胸に刻まれてきました。

## 記憶に残る光景に…

「昭和初期の面影が残る下鍵山の町並みをアピールしたい」「寂しくなってきた下鍵山に賑やかさを取り戻したい」、明星ヶ丘いきいき会の会員のそんな思いから始まった「ひよし星降るキャンドルナイト」。この独自性溢れる町並みと、そこに刻まれてきた歴史を後世に伝えていくため、平成23年、会員たちの挑戦が始まりました。

## 新たな挑戦へ

8月21日・22日の2日間、わたって開催された今年の「ひよし星降るキャンドルナイト」。キャンドルの灯りに包まれた町並み、そして今年初めて行われた明星ヶ丘での段ボールアートでは、さまざまな色彩の光が辺り一面を照らし出しました。また、鬼北町のゆるキャラ「き



下鍵山の中心部である四つ角で行われた出征兵士の見送り

「ほくん」や「きじの助」などが映し出された影絵が登場。子どもたちは嬉しそうに、それらを眺めていました。

キャンドルに照らされた来場者の笑顔、そして、それを見つめる主催者たちの安堵の笑顔。「地域おこしのために」と動いた人の心が、それを見に来た人の心を動かし、そして、そこに笑顔の連鎖が生まれていました。

手づくりのキャンドルに灯る温かな色合いの光。その優しい灯りが、下鍵山の魅力ある雰囲気を一層際立たせ、これからも人々の記憶により印象深く、その光景を焼き付けていきます。

